

初めて日本語を学習する人のための
「いろどり日本語オンラインコース 入門 (A1) コース」の制作
笠井陽介*、國頭あさひ*、熊野七絵*、安達祥子**、竹内智美*、宮内文音*
(*国際交流基金関西国際センター)、(**シドニー日本文化センター)

**Creating the Starter (A1) Course at IRODORI Japanese Online Course for
People Learning Japanese for the First Time**

Yosuke KASAI* Asahi KUNITO* Nanae KUMANO* Shoko ADACHI**
Tomomi TAKEUCHI* Ayane MIYAUCHI*

*The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai ** The Japan Foundation, Sydney

要旨：入門 (A1) コースでは日本語未習者のために、①日本語の特徴の把握、②文字未習者のサポート、③日本の生活・文化の疑似体験、の観点から独自のコンテンツや機能を実装した。①に関しては、日本語について解説した「日本語イントロダクション」を作成し、日本語の特徴を把握したうえでスムーズに学習を開始できるようにした。②に関しては、「ひらがな」「カタカナ」の導入、練習のコンテンツに加え、「ローマ字表示ボタン」を実装し、学習開始直後の学習者が文字が読めなくても学習が進められるよう配慮した。③に関しては、「日本の生活 TIPS バーチャル体験」コンテンツを作成し、日本の生活・文化への理解を深められるようにした。

キーワード：eラーニング、オンラインコース、A1、自学自習、生活場面、VR 技術

1. 「いろどり日本語オンラインコース」の概要

「いろどり日本語オンラインコース」(国際交流基金. 2021) (以下、「いろどりコース」) は、日本で生活や仕事をする際に必要となる基礎的な日本語のコミュニケーション力を身につけるための日本語コースブック『いろどり 生活の日本語』(国際交流基金. 2020) (以下、教材『いろどり』) をオンラインコース化したもので、2023年6月時点の開講コースと解説言語は表1のとおりである。

表1：開講コースと解説言語 (2023年6月現在)

レベル	コース名	解説言語
A1	入門 (A1)	日本語、英語、ベトナム語、インドネシア語、クメール語、モンゴル語、ミャンマー語、ネパール語、タイ語、中国語
A2	初級1 (A2)	
	初級2 (A2)	

学習者は、ユーザー登録を行えば、誰でも無料でコースを受講できるようになる。コースのメインコンテンツは、Can-do 目標に沿って日本語を学ぶ「学習コンテンツ」、Can-do を達成するのに必要な言語知識を獲得、強化する「練習コンテンツ」で、自学自習をサポートするための「サポートコンテンツ」や学習進捗を管理できる「マイページ」もある（安達・笠井・熊野, 2023）。これらに加え、日本語未習者のための入門（A1）コース（図 1）には、「イントロダクション」等の独自のコンテンツがある。



図 1：入門（A1）コース トップページ

入門（A1）コースでは、日本語未習者がスムーズに、かつ継続的に学習を進めていくための工夫として、①日本語の特徴の把握、②文字未習者のサポート、③日本の生活・文化の疑似体験、の3つの観点から、独自のコンテンツや機能を実装した。

2. 入門（A1）コースの工夫点

2.1 日本語の特徴の把握

1つ目の工夫点として、日本語未習者がメインコンテンツ（学習コンテンツ）での学習を始める前に、日本語の特徴を把握できるように、「イントロダクション」内に「日本語イントロダクション」コンテンツを作成した。「日本語イントロダクション」では日本語の特徴（文字、文法、発音）についての説明を解説言語で読むことができるようにした。



図 2：文字の解説



図 3：文法の解説



図 4：発音の解説

2.2 文字未習者のサポート

2つ目の工夫点として、日本語未習者の文字習得の負担軽減のために、「イントロダクション」内に「ひらがな」「カタカナ」コンテンツを作成し、音声を聞きながら仮名を学んだり（図 5）、発音や入力について解説を読んだり（図 6、図 7）できるようにした。



図 5：清音の導入



図 6：発音の解説



図 7：入力の解説

さらに「練習コンテンツ」内にも「ひらがな」「カタカナ」の練習を用意し、学習者が複数の練習形式（タイピング、手書き、聞いて選ぶ等）から練習したい形式を選択し、繰り返し練習ができるようにした。



図 8：聞いてタイピングする



図 9：見て書く



図 10：聞いて選ぶ

加えて「ローマ字表示ボタン」を「学習コンテンツ」内の前半課に実装し、学習開始直後の学習者が文字が読めなくても学習を進められるよう配慮した。



図 11：ローマ字表示ボタン

2.3 日本の生活・文化の疑似体験

3つ目の工夫点として、VR技術（360度写真）を利用した「日本の生活 TIPS パーチャル体験」コンテンツを作成した。360度写真の中では、自由に視点を変えたり、場所を移動したり、説明を読んだりすることができる。日本に関する予備知識のない学習者でも、没入感のある疑似体験を通して日本の生活・文化への理解を深められるようにした。



図 12：日本の生活 TIPS バーチャル体験

3. おわりに

2021年5月に初級1（A2）コース日本語・英語版を開講して以来、いどりコースではレベルと解説言語の拡充を図ってきたが、2022年10月の入門（A1）コース日本語・英語版、2023年5月の8言語版の開講により、日本語の学習経験が全く無い人でも、広く「いどりコース」で学習を始めてもらえるようになった。

2023年5月末時点の入門（A1）コースの総受講者数は10,915名に上っており、開講後約半年で、「いどりコース」のアカウント登録者数（43,323名）の約25%を占めるまで増加している。

2022年12月から2023年1月にかけて、ユーザーアンケートをオンラインで実施したところ（回答者100名、Microsoft Formsを使用）、「いどりコース」全体の満足度に関しては、「とても満足（64%）」「まあ満足（29%）」と回答したユーザーが9割を超えていた。入門（A1）コースに対する自由記述としては「ゼロから勉強する人にとって学びやすい」「教材『いどり』にはローマ字がないので、ON/OFF方式で必要な人だけ表示できるのはとてもいい」など、制作上の工夫点を好意的に評価したコメントも見られた。

現在「いどりコース」の解説言語は10言語に対応しているが、今後、ベンガル語、ラオス語も追加予定である。さらに多くの学習者から利用してもらえるよう、SNS等も活用し、効果的な広報を行っていきたいと考えている。

参考文献

安達祥子・笠井陽介・熊野七絵. 2023. 「「いどり日本語オンラインコース」開発と運用」『国際交流基金日本語教育紀要』19: 15-30. 国際交流基金.

国際交流基金. 2020. 『いどり 生活の日本語』

(<https://www.irodori.jpf.go.jp/> 2023/06/07 参照) .

国際交流基金. 2021. 「いどり日本語オンラインコース」

(<https://www.irodori-online.jpf.go.jp/> 2023/06/07 参照) .